

陳謝請求催告書

御承知のナイロンカイロ事件について左記のとおり謝罪広告をなされるよう催告します。

記

一、謝罪広告をなすべき新聞紙及び雑誌の表

示

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、中部日本

新聞、山岳雑誌、山と溪谷、山岳人

二、謝罪広告の内容

私には昭和三十一年一月二日、前穂高岳で

発生した若山五朗氏の遭難原因について、

ナイロンカイロが岩角にかかったときには

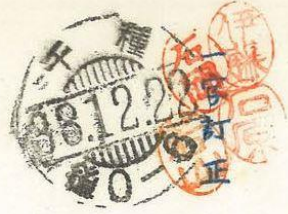
従来知られていない欠点を指摘したことが





社会・登山界で問題となつて  
知し、且つ、同遭難事件後、東洋レ  
研究室内での私の指導する実験によつて、  
ナイロンケーブルは岩角で重大な欠点を持ち  
若山氏の遭難条件によつても容易に切断す  
ること、及び岩稜会が名古屋大学工学部で  
行った実験即ち事故のおきたガイールと同種  
の八ミリナイロンケーブルを四十七度の岩角  
にかければ六十九キログラムで切れるとい  
う実験の正しいことを承知したのでありま  
すが、その後、私は四月二十九日、事故  
のおきたガイールを製造した東京製綱株式会  
社蒲郡工場内で、新聞社、登山者多数が参





観するカイルに關する実験を指導しました  
 が、同実験では、角の丸みがニミリという  
 岩角を使用したため、~~四十五~~度の岩角にか  
 かった場合でも五百キログラムの重量にた  
 え、且つ、麻カイルよりも数倍強いという  
 結果、及び若山氏が使用したカイルと同種  
 の八ミリナイロンカイルを角の丸い四十五  
 度の岩角にかけ、~~若山~~氏の遭難したときと  
 同じ位置関係から、五十五キログラムの錘  
 を落下させる実験で切れないう結果を示しま  
 した。このため同年五月一日付中部日本新  
 聞には「ナイロンカイルは、岩角で欠桌を  
 もたない。又、若山氏の死因も、カイルが





岩角で切れたのではないとみなされるという誤った報道がなされ、又、山岳雑誌「山と溪谷」には「昨年北アルプスで切断事故をおこしたナイロンカイルは、メーカーで科学的テストを行って保証した」という記事が発表され、若山氏と同行した石原国利氏・沢田策介氏及び若山氏の属する岩稜会は若山氏の死因について疑惑をうけ、又自分達の非をかくさんがためにナイロンカイルに欠点があるという虚偽の発表をして登山界を混乱させ、且つ、カイルメーカーに損害を与えたと社会、登山界から疑惑をもたれるにいたり、又、若山氏の遺族も大





12.22  
0-6

岩角で切れたのではないとみなされるという誤った報道がなされ、又、山岳雑誌「山と溪谷」には「昨年北アルプスで切断事故をおこしたナイロンカイルは、メーカーで科学的テストを行って保証した」という記事が発表され、若山氏と同行した石原国利氏・沢田榮介氏及び若山氏の属する岩稜会は若山氏の死因について疑惑をうけ、又自分達の非をかくさんがためにナイロンカイルに欠点があるという虚偽の発表をして登山界を混乱させ、且つ、カイルメーカーに損害を与えたと社会、登山界から疑惑をもたれるにいたり、又、若山氏の遺族も大





前日本山岳会関西支部長

大阪大学教授

篠田 軍治

(以上)

昭和三十三年十二月二十二日

三重県鈴鹿市神戸新町

伊藤 経男

名古屋市千種区大久手町六の十九

伊藤 しょう方

石原 利原

名古屋市昭和区山手通三の三

石岡 繁雄





愛知県海部郡佐織町大字見越五

若山富夫

大阪府豊中市麻田九七

篠田軍治殿

の郵便物は昭和三十一年十二月五日 日第六十四号

書留内容證明郵便物として差し出したことを證明します

千種郵便局 謹啓



1957  
[Red circular postmarks on the right margin]